

沖縄 元気プロジェクト



「大宜味の空気を丸ごとブランド化プロジェクト」 「大宜味いいところ見つけ隊」

大宜味にしかない魅力に
気づき、発信したい！

大宜味村は那覇市から北へ八十七キロメートル、芭蕉布の産地であり、長寿や「ぶながや」(がじゅまるの木糖)の里として知られています。東シナ海に面し、面積の七割以上が森林という自然の宝庫「大宜味村」は、豊かな自然環境を丸ごとブランド化するユニークな取り組みが始まっています。

「来てもらえればわかりますが、大宜味は空気の美味しさが違うんです」と語るのは、大宜味村商工会経営指導員の宇根哲也さん。村の有志たちが大宜味村を活性化したいと模索しているその情熱と考えに賛同し、商工会で何かお手伝いが出来ないかと感じたことが宇根さんのプロジェクト参加へのきっかけでした。

大宜味にしかない野鳥のさえずりや波音、塩屋湾や水田の美しい風景、四季の花々やシークワーサーなど、視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚の五感で感じる大宜味村の魅力を引き出し、ゆったりと流れる時間や澄んだ空気を丸ごとブランド化しようと考えたプロジェクト

プロジェクトが「大宜味いいところ見つけ隊」です。このプロジェクトは平成二十年度沖縄県地域ブランド構築推進事業に採択されました。この補助金で講演活動を行い、地域ブランド構築の土台を作っています。



前列左から、沖縄県観光商工部・新垣さん、照喜名さん、観光商工部・兼島さん、後列左から、観光商工部・富永さん、前田さん、中森さん、大宜味村商工会・仲井間さん、大城さん、商工会・宇根さん

産官学の多彩なメンバーで
めざす「大宜味村の活性化」

メンバーは多彩な人材が集まっています。大宜味村役場や商工会の職員をはじめ、地元農家の大城吉範さん、村出身のグラフィックデザイナーの前田勇恵さん、フリースクールの運営する照喜名恵子さんの他、NPO団体が所属しています。また、神戸で地域プロデュース会社を経営している中森光彦さんは、五年前に仕事で初めてやんばるを訪れ、大宜味の人々の環境に対する意識の高さに感銘を受けたことをヒントに起業し、このプロジェクトのコーディネーターの役割を担っています。さらに中森さんの働きかけで法政大学の協力が得られ、産官学のバランスがとれたコラボレーションが実現しました。地元の視点と外からの視点を大切に地域ブランドの構築



を進めています。

質の良い農産物を
「新・大宜味ブランド」へ

昨年八月から毎月、プロジェクトメンバーによる意見交換会を重ねた結果、今年度は新たに村の地域資源である農産物を使ったアグリビジネス(農業関連産業)に挑戦します。減農薬・有機栽培による「安心・安全な食の提供」を通じて村の農産物のイメージ

アップやブランディングを図り、地域活性化につなげていく予定です。

「大宜味には、赤土大根や地元の荀チンブク、シークワーサーなど質のいい農産物がたくさんありますが、いいものを作るだけでなく大宜味のイメージを発信することが大切」と話す大城さん。このプロジェクトへの参加でイメージ醸成の大切さを実感しています。

また、大宜味村の自然を活用したヒーリングビジネスに着目している照喜名さんは、「海や山以外にも、目に見えない風、香りや「ぶながや」など、精神

「大宜味村に学ぶ！」
元気プロジェクトの開発ヒント

- ・村の外からの知恵や視点が大切
- ・おいしい空気や集落の方言、機械の音など見えないものも「資源」
- ・産官学のバランスの良いコラボで村民意識が向上

文化の高さを活用した次世代へ受け継ぐ新たな産業界が必要で、みんなの共通の想いを確認できて活動の範囲が広がっています」と語ります。

「大宜味が好き」「みんなであれば出来る」「一緒に何かを創れることが誇り」とそれぞれの想いを熱く語るメンバー。その活気と楽しそうな笑い声に大宜味の元気の源がありました。

編集後記

三カ月前に職場の先輩から頂いたベアのカブトムシ幼虫。白くて丸っこい愛嬌のある姿に娘二人とも大変気に入ってくれたのですが、やがて両方とも立派な成虫になったところ、「ゴキブリみたいで怖い」ということで切腹しようとしません(おい)。そんな哀れなカブトムシですが、今日も元気に虫かごの中を動き回っています(笑)。(Takko)

GWに、レンタカーを使って東北旅行に行ってきました。予想通りというかそれ以上の大渋滞。そこで気づいたのが、ブレーキを踏む時には、どの車もハザードランプを点灯させる事。最初は、何だろーと思っただけでしたが、なるほど高速道路の急ブレーキによる追突事故を防ぐ警告だったんです。高速道路のルールを勉強できたGWでした。(momoko)



① ヒーリングスポットとしても人気の「喜如嘉の七滝」
② 大宜味村指定有形文化財「猪垣」を巡るグリーンツーリズム
③ 大宜味村特産物のシークワーサーを有機栽培
④ 大宜味村特産物の赤土大根を使ったアグリビジネスを計画



沖縄県広報誌 平成21年6月1日発行第33巻6号通巻405号

美ら島沖縄

企画・編集・発行 沖縄県知事公室広報課
〒900-8570 沖縄県那覇市泉崎1-2-2
TEL:098-866-2020

- 表紙 写真・島袋常貴 / 産地の梅を活用したアグリビジネスを展開(大宜味村)